

事務事業名 寺ヶ台横田線道路改良事業

政策:01 暮らしを支える快適なまちづくり

施策:01 道路網の整備・充実

部名:都市建設部

課名:土木課

基本事業:01 幹線道路の整備と維持管理

計画年度	平成4年度	～	平成23年度	事業区分	継続	会計区分	普通会計	
1 対象（誰、何に対して事業を行うのか）				2 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
市民、市道寺ヶ台横田線				道路の拡幅と歩道や側溝の設置により道路機能を充実することで、利用者の安全と利便性の向上を図る。 道路の概要（現状） 山武市埴谷地先（妙宣寺）～山武市横田地先 総延長 974メートル 幅員5.0m 平成21年度（H20繰越） 用地費 346.53㎡ 4,304,115円 補償費 建物、工作物、立木等 21,739,040円				
3 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）								
道路利用者の安全を確保し、利便性を向上させる。								
4 活動指標・成果指標・事業費の推移								
区分	指標名称			単位	20年度実績	21年度実績	22年度当初	25年度目標値
活動指標	年度当たりの市道寺ヶ台横田線道路改良延長			m	0	0	140	-
活動指標	年度当たりの道路用地買収面積			㎡	1,736	207	0	-
成果指標	市道寺ヶ台横田線道路改良済延長			m	600	600	740	950
成果指標								
事業費				千円	17,273	26,043	25,000	
				うち一般財源	千円	17,273	26,043	25,000
5 目的妥当性								
○ 法定受託事業である（根拠法令→） ● 妥当である ○ 妥当性が低い				市道を整備し利用者の安全や利便性を高めることは、道路管理者の責務であり、市の事業として実施することは妥当である。				
6 上位の基本事業への貢献度								
● 貢献度大きい（理由→） ○ 貢献度ふつう（理由→） ○ 貢献度小さい（理由→） ○ 基礎的事務事業				幹線道路を改良することは、道路の安全性や利便性を高めることとなるため、基本事業への貢献度は大きい。				
7 対象や意図の妥当性、費用対効果の検討								
○ 対象や意図を見直し、費用対効果を上げることができる ● 対象や意図の見直しはできない ○ その他				本事業は幹線道路の安全性・利便性の向上を図るための事業であり、対象や意図を見直すことはできない。				
8 有効性（成果状況）								
○ あがっている ● どちらかといえばあがっている ○ あがっていない				平成21年度までは、用地取得や補償を実施しているので、成果の向上は少ないが、平成22年度からの本工事の実施に伴い、成果向上の余地は大きい。				
9 有効性（成果向上余地）								
● 成果向上余地・大 ○ 成果向上余地・中 ○ 成果向上余地・小・無し								
10 事業の再編成								
○ 類似の事業があり、再編成できる ○ 類似の事業はあるが、再編成できない ● 類似の事業はない				近接路線の同様事業はない。				
11 効率性（コスト削減の方法）								
○ ある ● ない				現場条件に合わせ最良の施工方法を検討し、コストの縮減に努めて実施しているため、コスト削減余地はない。				